

若い女性が暮らしやすい 志摩づくり事業 提言書

2017年 3月 7日

若い女性が暮らしやすい志摩づくり
のためのワークショップメンバー一同

目次

1	はじめに	2
2	提言	3
	(1) 企業の雇用環境に関すること	3
	ア 雇用形態を幅広くする	
	イ 人員配置を工夫する	
	(2) 多様な機関で取り組む仕事と人をつなぐこと	4
	ア 仕事の情報発信をする	
	イ 起業に関する情報発信をする	
	(3) 地域コミュニティのあり方に関すること	5
	ア 人を留める取り組みをする	
	イ 支え合う協力態勢を強化する	
3	まとめ	7
4	その他	8

1 はじめに

「若い女性が暮らしやすい志摩づくり事業」は、若い女性にとって住みやすい、働きやすい地域にするための方法を女性が検討し、検討結果を市の施策に反映させたり、企業への啓発に活用することを通じて、若い女性が暮らしやすいまちづくりを推進することを目的として、ワークショップ形式で検討を進めました。

暮らしやすさを構成するなかでも、「働きやすさ」を向上させることが最も重要な課題と考え、志摩市における若い女性の働きやすさを向上させるための提言をまとめるとともに、起業の可能性についても検討しました。

志摩市において若い女性の働きやすさを向上させるための方向性を示し、次年度以降の具体的な施策への反映、企業への啓発、市民への情報発信などにつなげていただきたいと考えます。

2 提言

(1) 企業の雇用環境に関すること

ア 雇用形態を幅広くする

【現状と課題】

女性が仕事の継続に不安を感じている最大の要因は、ライフステージの変化などから、家庭と仕事の両立が困難な状況に陥ることです。職場の産休育休の制度が充実していないことなどの理由から、仕事を継続していく意思はあるにもかかわらず、仕事を辞めざるを得ない状況があります。

【提言】

社員・契約・パート・在宅など、雇用形態を幅広くして、個々のライフスタイルに合った働き方が選択できる仕組みを導入することで、女性が継続して働ける受け入れ体制の構築を推進する。

イ 人員配置を工夫する

【現状と課題】

女性はライフステージの変化に伴い、その時々には置かれている家庭環境などに応じて、仕事以外の様々な役割を担わざるを得ないことが多い現状があります。

子どもが急病の時や地域の行事など、家庭の事情で休暇を取得したいが、職場の人の負担の増加や人員に対しての業務量の多さから、休暇を取得しにくいといった意見があります。

【提言】

女性の能力を長期的にかつ最大限に活用するためには、柔軟かつ多様な働き方を可能とするためのサポート体制の充実や、職場環境の向上に繋がるための配慮を行い、業務量に見合った人員配置や、特定の世代に偏らない人員配置を工夫して、社員の休暇を取得しやすくし、職場の人にも負担がかかりにくい体制を構築する。

(2) 多様な機関で取り組む仕事と人をつなぐこと

ア 仕事の情報発信をする

【現状と課題】

市内で仕事を探す際に、やりたい仕事が無いと感じたり、求人情報を入手できずに求人が無いと考えてしまうことから、市外で就職したり転出する人がいます。また、先入観から、市内には産休育休などの福利厚生が整った企業がないと感じている人がいます。

このことは、労働力の減少や、地域経済の低下に繋がる要因のひとつとなっていることから、市内でできる仕事の見える化や仕事と人をマッチングさせる仕組みが必要です。

【提言】

仕事を見える化するために、企業が仕事内容、給与、福利厚生の詳細情報を開示して情報発信を強化する。また、様々な機関で仕事の情報を発信するなど、仕事を知るための取組みを強化する。

また、仕事と人をつなぎ、求職者のニーズに合ったコーディネートができる人材を配置する。

イ 起業に関する情報発信をする

【現状と課題】

ライフスタイルに合った多様な働き方をするために、起業という選択肢がありますが、多くの方は、起業についての知識が無く、起業の方法や仕事内容が分からない現状があります。

【提言】

起業のモデルケースの情報提供を行い起業への関心を高め、多様なライフスタイルにあった働き方の創出につなげる。例えば「ひとりでできる職種カタログ(起業しやすい仕事内容、方法、収入の目安などが掲載されているもの)」をインターネットで情報発信すれば、子育てや介護などで時間の制限がある女性にとって情報を閲覧しやすく、起業のきっかけになる。

また、様々な機関や情報誌に掲載するなど、一般の女性が広く情報を入手できるような周知をする。

(3) 地域コミュニティのあり方に関すること

ア 人を留める取り組みをする

【現状と課題】

地域コミュニティ(1)内の人口減少により、地域内の需要が減り、地域企業の経営の悪化に繋がっています。このことから、より人が都会へ流出してしまう傾向があります。

また、地域コミュニティが狭いことで個々のつながりが強く、助け合える関係が築きやすい一方で、近すぎて摩擦が起こりやすくなることから、デメリットを敬遠し、市内で働くことや住むことに目が向かないことが課題となっています。

地域の人口を増やして地域内での需要の増加を図るため、少しずつでも人口減少に歯止めがかかるよう粘り強く取組みを継続していく必要があります。

【提言】

出会い、結婚、出産の機会を創出するために、街コン(2)の強化をし、市内の人だけではなく、市外の人にも来てもらい、婚活から定住までをサポートできる仕組みを構築する。

また、地域の良いところとして、待機児童が少ないことなどを、インターネットを活用して市外にPRし、志摩市に関心を持ってもらい、移住や雇用に繋げる。

地域内の需要や雇用の増加に繋げるために、地域の繋がりを生かして、チャレンジショップなどで空き家や空き店舗のオーナーを募集して利活用をする。

1 地域コミュニティ 共通の生活地域(買い物や地域活動など)を想定。

2 街コン 街ぐるみで行われる大型の合同コンパ(親睦会)イベント。

イ 支え合う協力態勢を強化する

【現状と課題】

かつては女性が専業主婦として家庭や地域で役割を担う姿が一般的でしたが、現在、女性の社会参画などにより共働き世帯が増加しました。しかし、子育て支援などの社会的基盤は従来そのままとなっていて、仕事と家庭の両立に不安を持つ女性が増加しています。

核家族化や人口減少により、地域全体の交流の機会が減少しています。援助が得られずに、妊娠・出産や子育て、介護に対する不安を抱えて孤立してしまう女性があります。

また、女性起業家については、まだまだ地域に根付いておらず、周囲の理解が得がたく、仕事と家庭の線引きが曖昧になりがちで、両立に不安を抱えています。

【提言】

不安を解消できるよう、情報交換や助言を得ることは大変有効で、その為の協力態勢がある地域社会の構築を目指し、地域で仕事や子育ての相談ができる女性のグループを作るなど、交流の場を設ける。

また、仕事と家庭の線引きを明確にするために、空き施設を利活用するなど空間と時間を明確に分離できるよう支援を行う。

3 まとめ

女性は自身のキャリア構築のためというよりは、家族や周囲に配慮して働いていきたいという想いを持つ方が多いことを再確認しました。

企業には、多様な働き方ができるよう雇用形態（社員・契約・パート・在宅など）を幅広くすることや、休暇を取得しやすくするために、例えば、特定の世代に偏らないように人員配置に配慮するなど、個々のライフスタイルに合った、周囲の理解が得られる働き方の提案が選ばれました。

また、様々な機関で仕事内容や起業のモデルケースなどを周知する取り組みを強化することで、子育てや介護などで時間の制限がある女性が情報を得やすくなるなど、仕事と人を繋ぐための工夫が必要であることが分かりました。

若い女性が働くためには、労働環境の整備だけではなく、地域社会や家族の理解と協力が欠かせません。地域社会全体の意識改革や、協力体制の強化が大切で、地域全体で取り組んでいくことが必要であるという考えが、根底にありました。

この提言が活用され、より若い女性が暮らしやすい志摩市になることを期待します。

4 その他

若い女性が暮らしやすい志摩づくりのためのワークショップメンバー

志摩市内の女性16名

やまくち とみこ 山口 富子	しばはら まりこ 柴原マリ子	たばた たまみ 田畑 珠美	よこやまき よこ 横山希代子	てらお さちえ 寺尾 幸恵
ほりえ 堀江しおん	にしお さおり 西尾 沙織	ますや すずか 栴屋 紗香	まつい 松井しおみ	やまもと じゅんこ 山本 淳子
なかい ちづる 中井 千鶴	もりた みき 森田 美紀	いわき ひろこ 岩城 裕子	はら ともよ 原 与世	ひがしやま しおり 東山 紫織
やすだ 安田しおり				